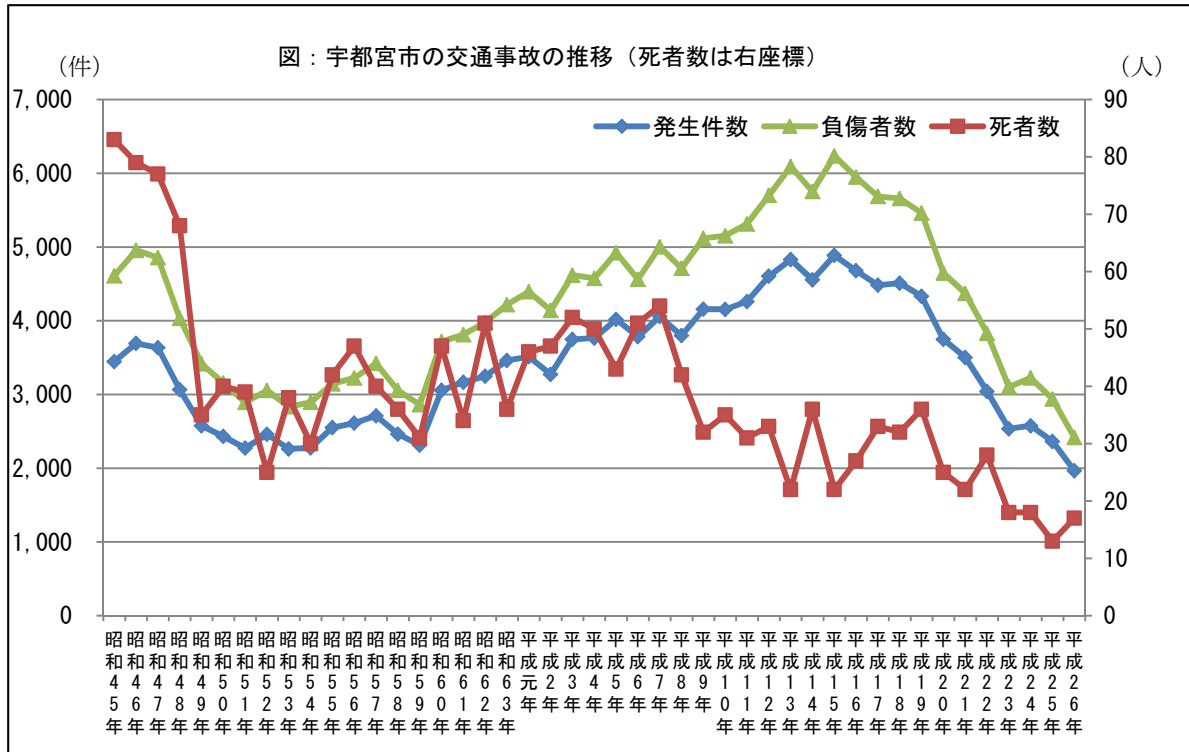


■主要関連データ

宇都宮市の交通事故の発生状況・特徴

○交通事故発生状況



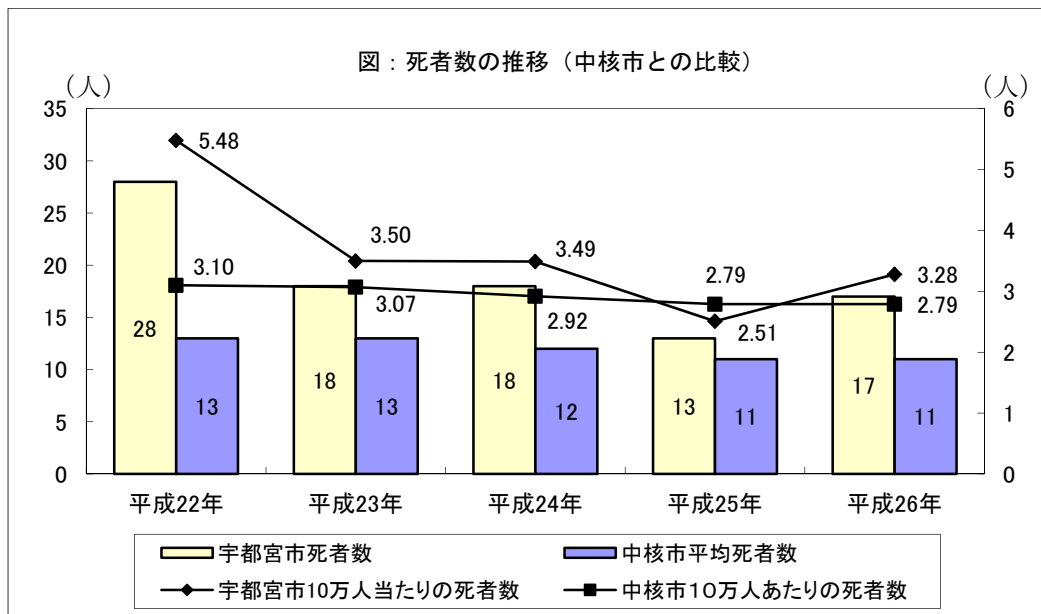
(資料：宇都宮市の交通事故)

[中核市との比較]

【死者数】

平成25年の10万人当たりの死者数は中核市平均を下回ったものの、平成26年は交通事故死者数、10万人当たりの死者数とも中核市の平均を上回っている。

平成26年中は43中核市で27位となっている。



(資料：宇都宮市の交通事故)

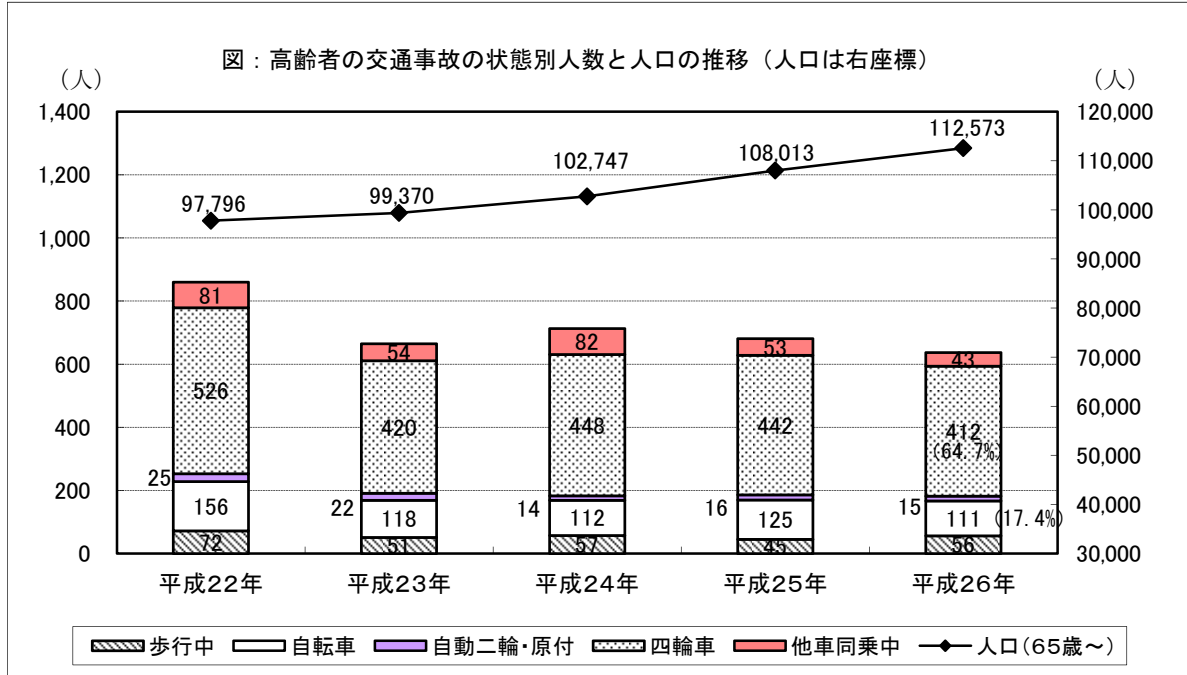
○年代別

〔高齢者の交通事故〕

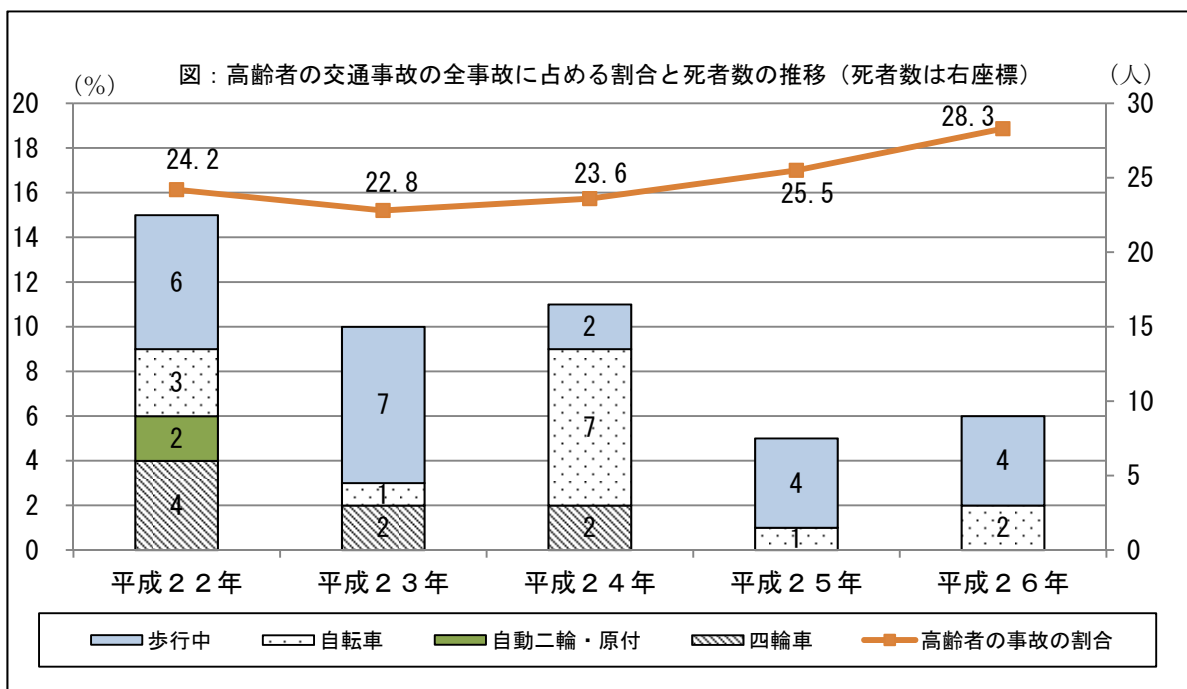
人口は増加しているが、当事者数は減少傾向にあり、状態別に見ると四輪車乗車中が64.7%、自転車乗車中が17.4%を占めている。

高齢者の交通事故の全交通事故に占める割合は、増加傾向となっている。

また、歩行中、自転車乗用中の事故では、他の年代に比べ自宅から500m以内で事故に遭う割合が高い。



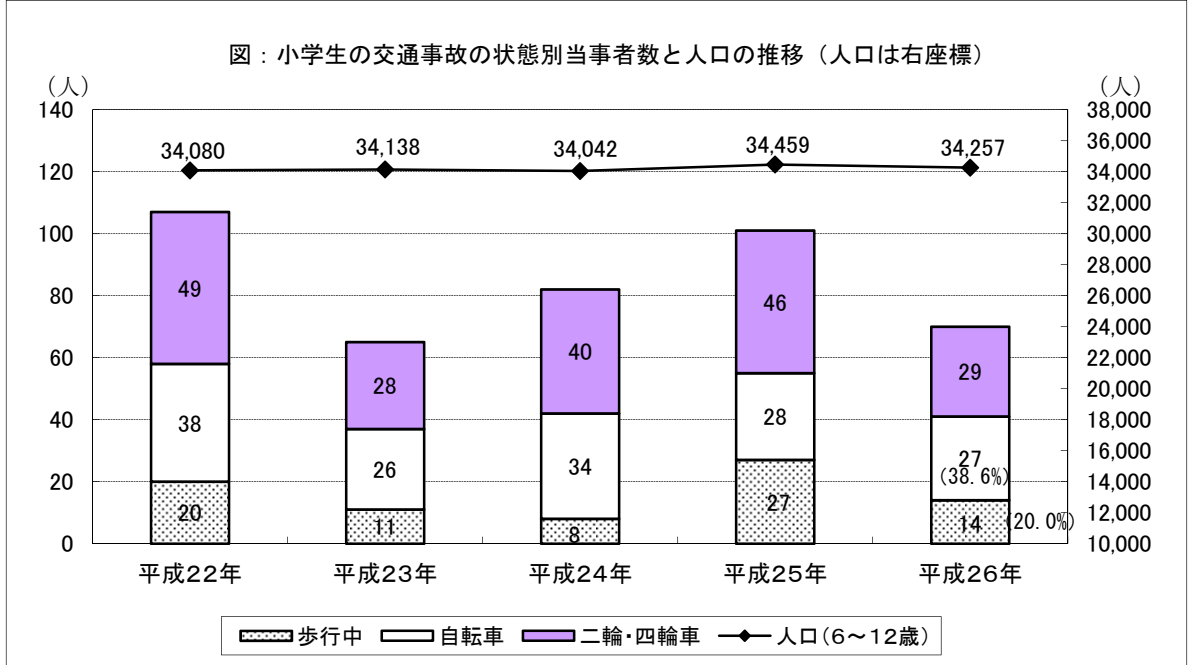
(資料：人口＝住民基本台帳，交通事故の状態別人数＝宇都宮市の交通事故)



(資料：人口＝住民基本台帳，交通事故の状態別人数＝宇都宮市の交通事故)

〔小学生の交通事故〕

人口は、横ばい状態であるが、当事者数は平成22年より減少している。状態別では、歩行中、自転車乗車中が58.6%を占めている。

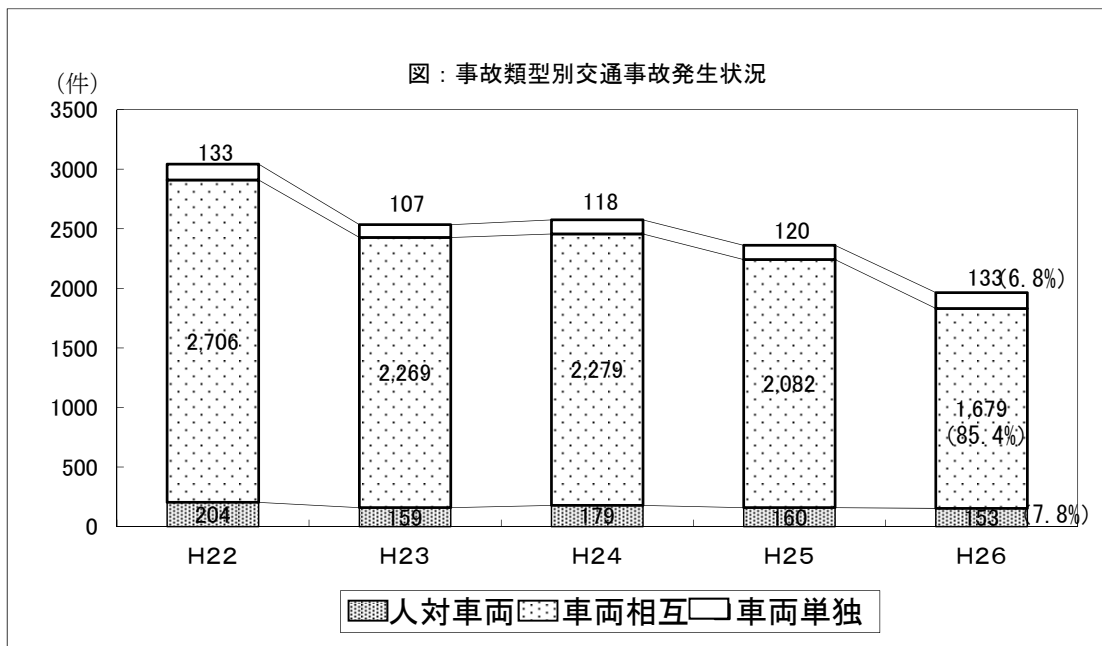


(資料：人口＝住民基本台帳，交通事故の状態別人数＝宇都宮市の交通事故)

○事故類型・状態別

〔事故類型別発生状況〕

事故類型別交通事故発生件数は、車両相互が85.4%を占める。車両単独による事故が平成23年以降増加傾向となっている。

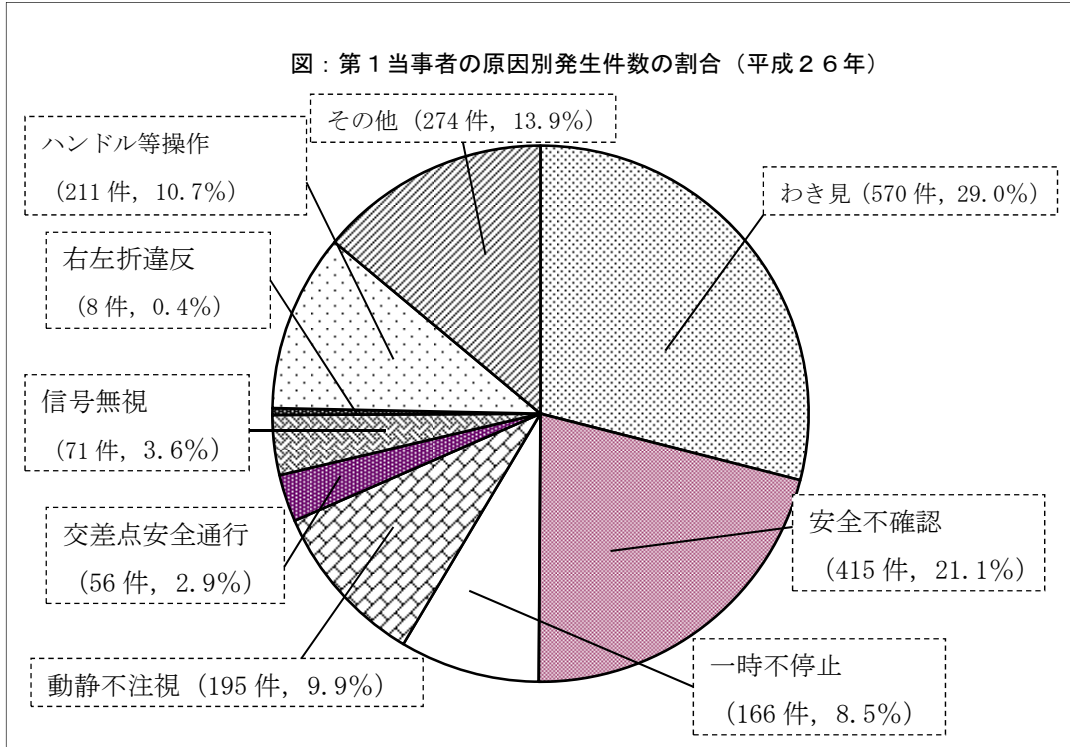


(資料：宇都宮市の交通事故)

〔第1当事者の原因別発生件数の割合（平成26年）〕

（第1当事者：交通事故に関係した者のうち、過失が最も多い者）

「わき見」「安全不確認」が全交通事故の50.1%を占めている。

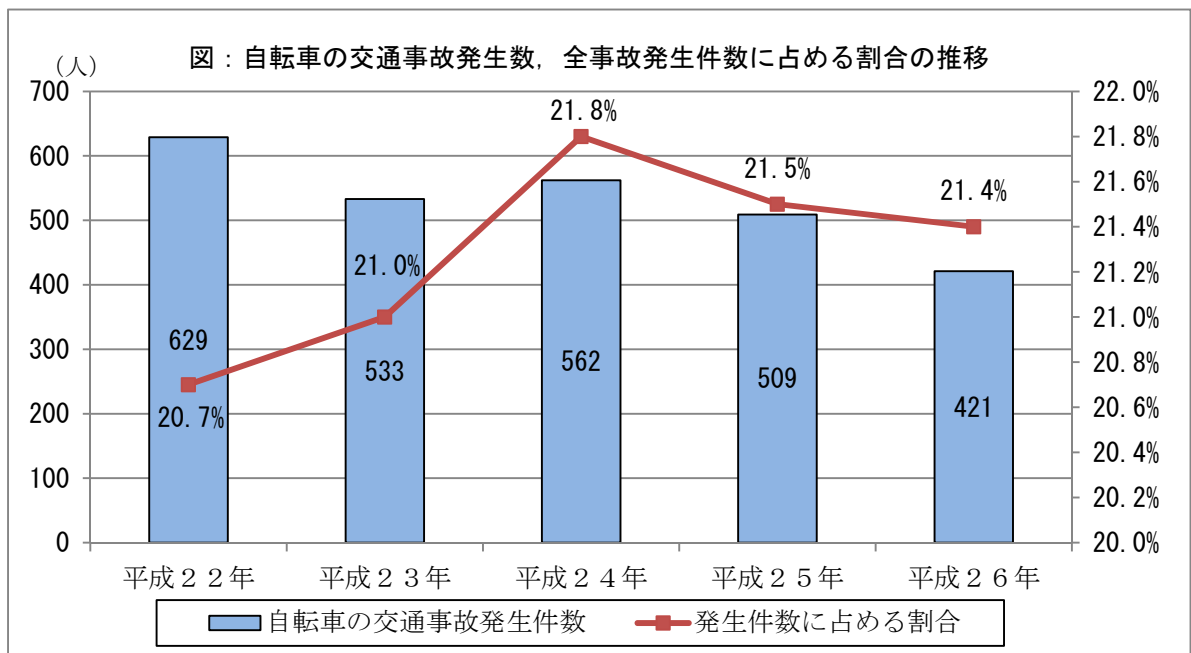


（資料：宇都宮市の交通事故）

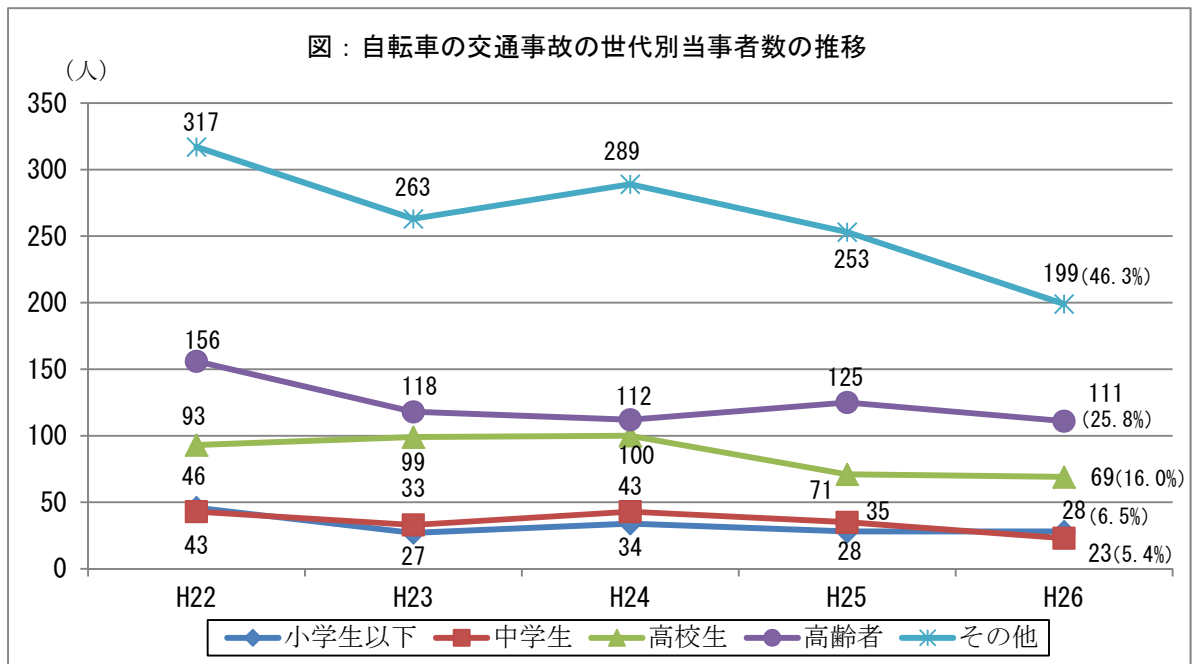
〔自転車の交通事故〕

自転車の交通事故発生件数は減少傾向にあるが、交通事故全体に占める割合は21%台が続き横ばい状態である。

自転車の交通事故当事者数を見ると、「子どもから高校生」と「高齢者」で53.7%を占めている。

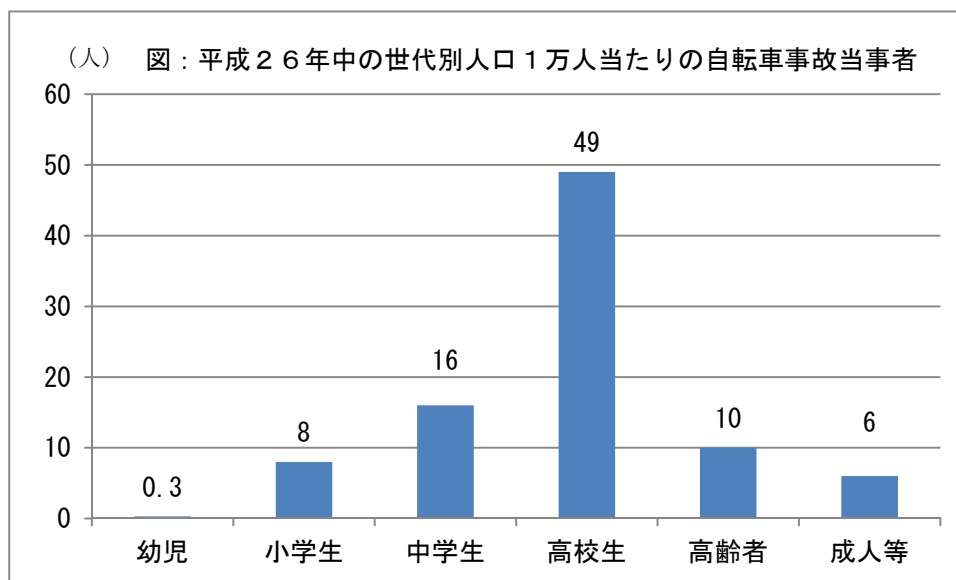


（資料：宇都宮市の交通事故）



(資料：宇都宮市の交通事故)

〔世代別人口1万人当たりの自転車事故当事者数〕



(資料：人口＝住民基本台帳，自転車事故当事者数＝宇都宮市の交通事故)

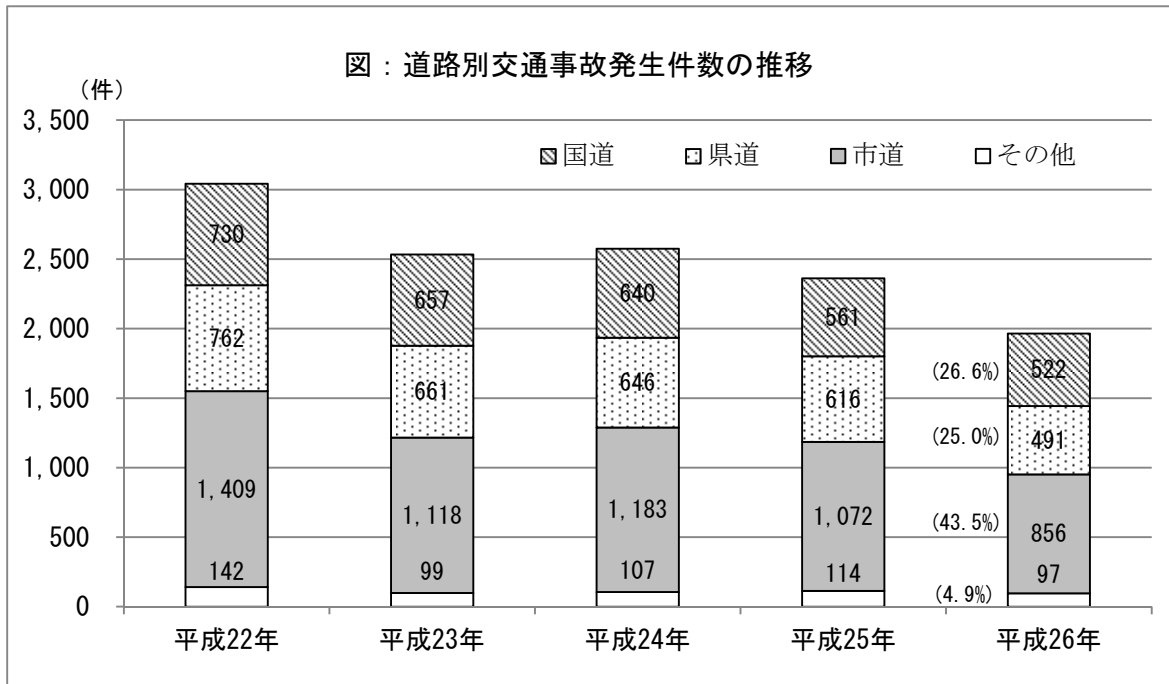
※人口当たりの当事者数の算出の基となる世代別の人口は、便宜上、幼児（0～5歳）、小学生（6～12歳）、中学生（13～15歳）、高校生（16～18歳）、高齢者（65歳以上）、成人等（19～64歳）で計算。

○道路別

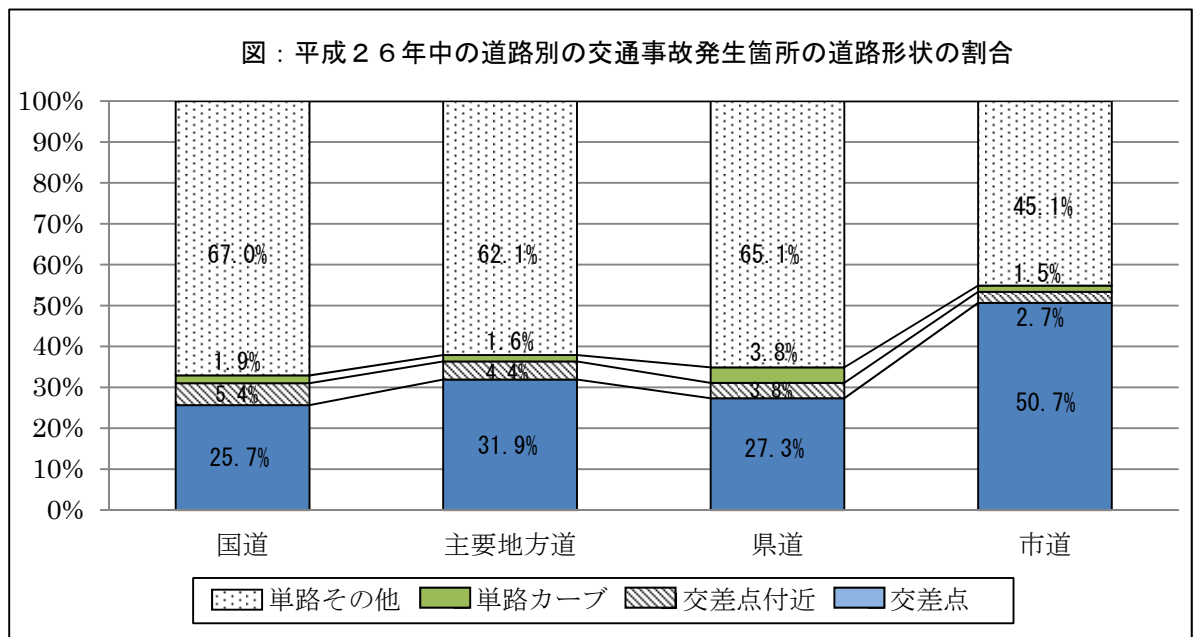
〔道路別の交通事故（発生地点）〕

道路別の交通事故発生箇所の道路形状別の割合は、国道、主要地方道、県道では「単路」が多くを占めており、市道では「交差点」が多くを占めている。

道路別の交通事故発生件数は国道から市道まで全てにおいて減少傾向にあるが、交通事故の43.5%は市道で発生している。



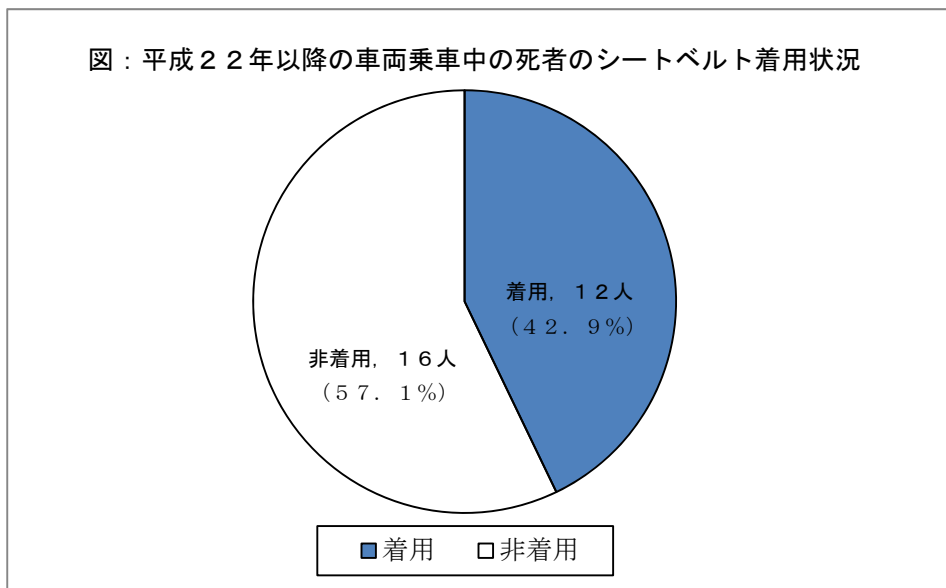
(資料：宇都宮市の交通事故)



(資料：道路事業概要，宇都宮市の交通事故)

○死亡事故

車両乗車中の死者のうち57.1%がシートベルトを着用していなかった。



(資料：宇都宮市の交通事故)

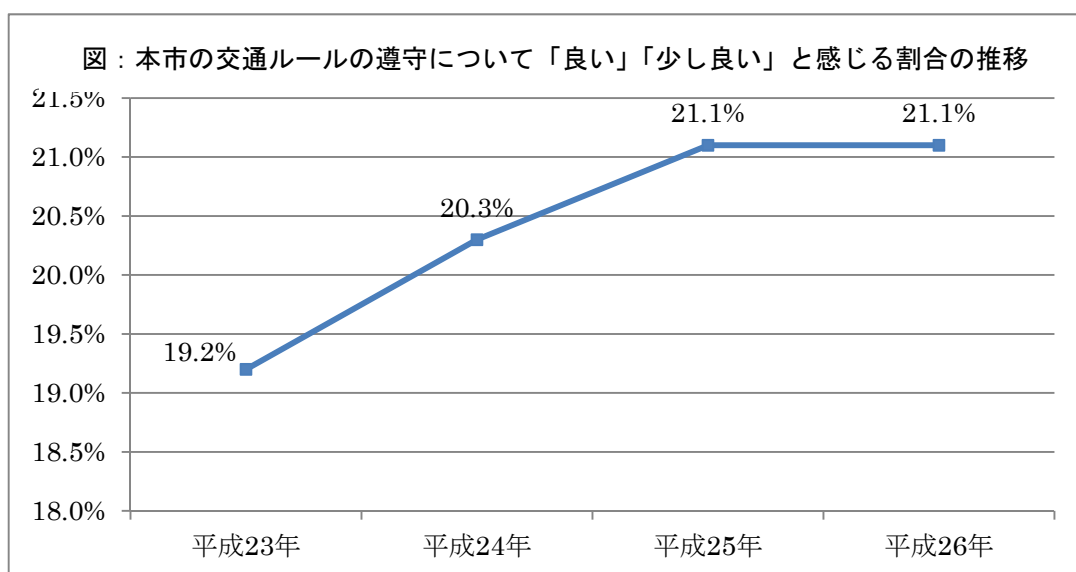
環境の変化等

○宇都宮市に関するもの

〔本市の交通ルール遵守、交通マナーについて〕

ア 交通ルールの遵守について（問4）

『宇都宮市内の自動車等の運転者（自動二輪，原付を含む）の交通ルールの遵守について，どのように感じますか。』と聞いたところ，「良い」「少し良い」の2つを合わせた構成比は21.1%，平成23年と比較すると，1.9%上昇している。しかし，「少し悪い」「悪い」の2つを合わせると76.3%と「良い」「少し良い」を大きく上回っている。

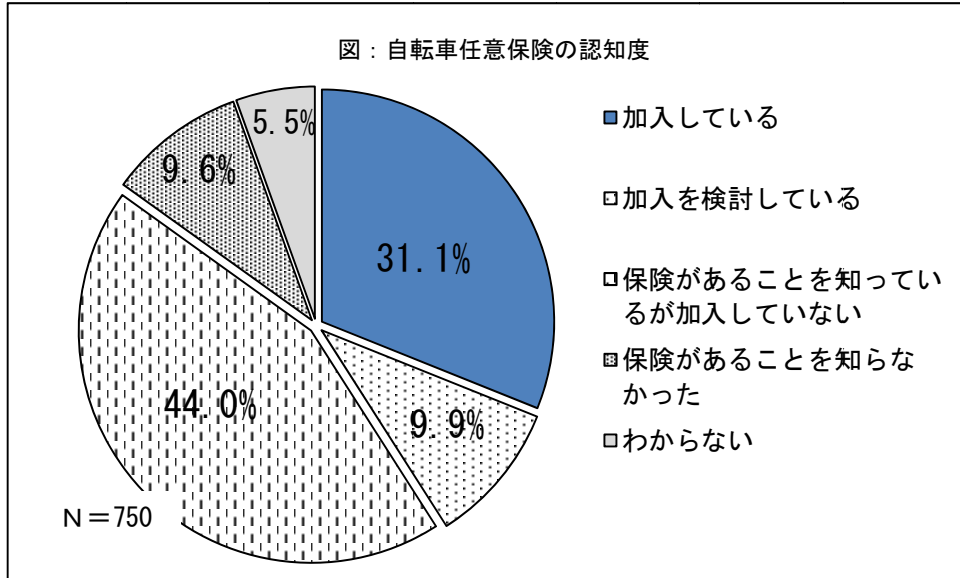


（平成26年）

	回答数	構成比
良い	52	3.8%
少し良い	238	17.3%
少し悪い	696	50.6%
悪い	354	25.7%
無回答	36	2.6%
計	1,376	100.0%

〔自転車任意保険の認知度〕

『自転車任意保険の認知度』は、約85%であるが、実際に加入していると回答したのは31.1%となっている。



〔年齢階層別のトリップ数の推移〕

・概ね35歳程度までの若年層のトリップ数は減少の傾向にあるが、35歳以上のトリップ数は増加する傾向にある。特に、65歳以上の高齢者のトリップ数の増加は著しい。

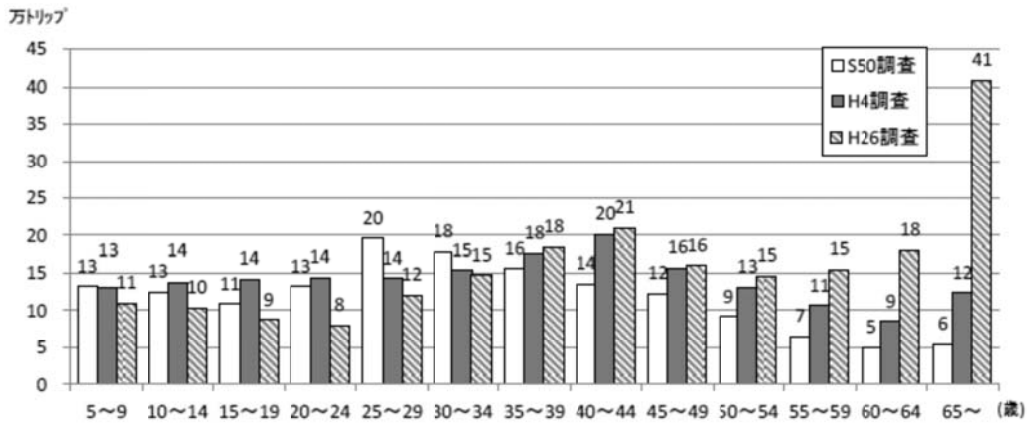


図 10-25 年齢階層別のトリップ数の推移

(資料：平成26年度県央広域都市圏生活行動実態調査)